

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田
所在地	山口県岩国市平田5丁目27-55
自己評価作成日	評価結果市町受理日 平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成24年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国180箇所以上のGHを展開させて頂いております。愛の家グループホーム岩国平田は、中四国九州エリアと地域としては広いですが、他の愛の家との情報共有が行える体制を作っており、地域との連携を意識した運営を実践しております。又、日々利用者様お一人ひとりのADLに合わせたケアを行い、寄り添ってのコミュニケーションを行っております。そして、とても明るいスタッフが揃っておりますので、毎日いつでも笑い声と歌声の耐えない雰囲気になっております。その他周囲の自然を満喫しながらの散歩・近隣のスーパーへの買い物・食事やおやつ作りなど、ご利用者様の「想い」に寄り添ったケアを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理職員を確保され、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者と職員と一緒に食事の準備をされたり、後片づけをしておられ、畑で収穫した野菜や地元の食材を利用して季節感のあるバランスの良い食事を提供されています。家族会時には、家族と一緒に鍋パーティーを開かれたり、3ヶ月に1回の外食や寿司を取り寄せたりされるなど、利用者の食事が楽しみなものになるように取り組まれています。新聞購読されている利用者やテレビ視聴、事業所に掲示する月ごとの貼り絵づくり、DVDに合わせて歌を歌ったり、散歩や買い物、外食、花の手入れ、畑づくり、草とりなど利用者一人ひとりのできること事やしたい事、楽しみ事などの場面をつくり、張り合いのある暮らしができるように支援をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MSC開設時から作られているもので、運営理念を意識した「介護」を実践すべく、毎朝朝礼時、出勤スタッフ全員で唱和しています。	法人の理念と併せて、「錦帯橋のような地域の架け橋になります」という事業所独自の理念を事業所内に掲示し、職員全員で共有し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、運営推進会議などの参加の声掛けを行っています。地域への日常的な散歩を行っており、近所のスーパーなどへの買い物も行っています。又近隣幼稚園の定期訪問で交流も実践しております。	地域行事(夏祭り、敬老の集い)への参加や、町内会の清掃作業に職員が参加している。近くの幼稚園から2ヶ月に1回20人程度の園児が来訪し、歌や遊戯をして、利用者と交流したり、ボランティア(腹話術、琴の演奏)の訪問がある他、買い物や散歩の時に地域の人と挨拶を交わすなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りや、敬老のつどい等に進んで参加しております。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回評価して頂いた内容を全スタッフに周知し、改善して参りました。今回も自己評価を全スタッフに回覧し評価を生かして改善に向けて取り組んでいます。	評価の意義について管理者が職員に説明している。自己評価はユニットリーダーと話し合っ、管理者が作成し、職員に回覧している。自己評価から、日々のレクリエーションや事業所内での過ごし方、外出の支援などの改善に取り組んでいる。前回の外部評価結果については、運営推進会議を2ヶ月に1回開催するなどできるところから取り組んでいる。	・全職員での自己評価の実施
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。ホーム見学をしていただき、特に緊急時における協力には都度理解と協力しております。	2ヶ月に1回開催し、行事や活動報告、利用者の状況報告、事業所の課題や取り組みなどを報告し、防災についてなど意見交換をしている。意見をサービス向上に活かすまでには至っていない。	・地域メンバーの拡大 ・運営推進会議を活かした取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩国市が主催する研修会参加など、職員に伝達し、参加出来るような体制を作っている。市からの伝達に関しても、メール・FAX等で、随時確認しております。	市の担当課には出向いて相談し助言を得る他、FAXやメールで情報の確認をしている。年2回ある市内事業所協議会で意見交換をする他、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議で情報交換するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っていません。	法人のマニュアルを基に内部研修を実施し、全職員が理解したうえで抑制や拘束のないケアを実践している。玄関の施錠はしていないが、2階の出入り口は、職員が安全を確認できない時には鍵を掛けている。スピーチロックやドラッグロックについては、全体会議で話し合い、しないことを徹底している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っていません。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、そうなった場合は研修を受けるなどの体制を作っています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っており、ご家族様には十分な説明を得られております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしている。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けている。	年1回の家族アンケートや面会時、運営推進会議時、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。出た意見を伝達ノートに記録し、全体会議で話し合い職員間で共有し、居室の清掃や個別ケアの充実などの意見を運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社からの実施で、職員アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。又都度現場に足を運び、個別にスタッフからの意見収集をしています。	年1回の職員アンケートや全体会議、ユニット会議で職員の意見を聞く機会を設けている他、個別に意見聴取をしている。出た意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの役割に応じた業務分担をし、全スタッフが遣り甲斐を感じる様、日々取り組んでおります。無資格のスタッフには、会社制度を利用しての資格取得を促しております。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有に努めています。又、内部研修では、本社での研修資料を基に毎月定期的に行っております。	外部研修は情報を提供している。希望者1名が受講している。法人研修はインターネット中継で各ユニット1名づつが受けている。内部研修は年間計画を立て、月1回全体会議の中で30分程度実施している。	・外部研修に職員が参加できるための検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有しています。又、定期的に居宅・老健等に訪問をし、情報交換・収集に努めております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安なく利用者様を入所出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。又、サービスの変更(入院等)があった時などは、都度相談し、変更しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況など、毎月の新聞発行と共に状況のお手紙を送付している。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会や、馴染みの関係の方の来訪などがあります。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援してまいります。	地区の敬老の集いへの参加、馴染みの店での買い物、行きつけの美容院の利用、友人、知人、身内の人の来訪、移動美容院や移動パン屋の利用など、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出きる合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を唄ったりする個別レクリエーション等、日々変化を起こしながら関わっています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。そして、お引越し後も、お引越し先に出向き、お話の出きるような関係を構築しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き把握に努めています。	計画作成担当者が日常の業務の中で利用者から希望や意向を聞き取る他、職員が日々の関わりの中での会話や行動などから、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞きとったり、日ごろの様子から把握し本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。又各ユニットに「健康シート」を設置し、ご入居者様の健康管理を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成し計画作成を行っています。	月に1回のユニット会議でカンファレンスを実施している。サービス担当者会議で、職員が把握している本人や家族の意見、意向などを参考に話し合い介護計画を作成している。介護記録に介護計画の実施状況を記録し、6ヶ月ごとにモニタリングを実施して見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、看護ノート・介護申し送りノート・健康シートを使用し、職員間での情報共有を行っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしています。ご本人様との会話の中で、希望に添えるものはないかと日々支援しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に一緒にお連れしています。又、近隣幼稚園との交流会やボランティアの受け入れをし、楽しく生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいしい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいしいケアクリニックDrによる往診があります。往診医とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が来ています。	利用者それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。家族の協力を得て受診の支援をし、受診に必要な情報を医師に伝えている。家族に受診結果を伝えたり、家族からの伝達は「健康確認シート」を活用し、職員は共有して支援している。2週間に1回の往診や緊急時の対応など適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えています。また、入居者が入院中は、スタッフが日替わりでお見舞いにも行かせて頂き、病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、情報の共有が行えています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のご希望に添えるようグループホームが最後の家と思って頂けるように体制の強化を行っています。主治医との密な連絡体制を構築し、緊急時の往診・特変時の相談等、常時連携を図っています。	重度化や看取りに関する法人の指針があり、家族に対して契約時に口頭で説明し、同意書をもらっている。事業所でできる対応についても説明し、実際に重度化した場合は、その都度、家族や主治医、看護師、職員等で話し合い方針を共有して移設も含め支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故などのマニュアルが社内であり、マニュアルに沿って事故防止に努めています。また、月1回の全体(スタッフ)会議の際に勉強会の実施しています。今後は救命講習の参加も実施していきます。	事故・急変報告書、ヒヤリはっと報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、ユニット会議で改善について検討し、介護計画に反映させるなどして一人ひとりの事故防止に努めている。初期対応として看護師の指導で吸引ノズルの使い方の研修を実施しているが、全職員を対象にした応急手当や初期対応の訓練を実施するまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。地域の方の消防訓練への参加もあり、運営推進会議等での議題にあげさせて頂いています。	年2回火災時避難訓練（夜間想定を含む）（年1回は消防署の協力で）を実施している。訓練に地域の人の参加があるが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声掛けを行っておりますが、ご本人様やご家族の方の希望により、入居者様のお名前を呼ばせて頂いている方もおられます。排泄時には、トイレの外で待ったり、居室入室時ノックしたり等プライバシーに配慮しています。	プライバシーの保護のための取り組みについて内部研修を実施している。職員は利用者一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に努めている。不適切なケアや職員の都合や配慮の欠けた言葉かけや対応に対してユニットリーダーがその都度注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、ご自身で決めることが出来るように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に合わせず、ご利用者様のニーズ・想いに出来るだけ寄り添った支援を心がけています。散歩・買い物等入居者様の希望に反映できるよう、意識しております。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・入浴後入居者様が着たいと思う服装と一緒に選ぶなどし、更衣をして頂いています。また、お出かけに行く際には、お化粧などの支援も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用しています。又、普段から出来るだけ一緒に準備・調理をするよう心がけています。時には外食や、お寿司を注文したり等、楽しく食事ができる様、支援しています。	調理職員を確保して三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は野菜の下ごしらえやゆで卵の皮むき、盛り付け、トレイ拭き、食器洗いなど一人ひとりができることを職員と一緒にしている。畑で収穫した野菜や地元の食材を利用して、季節感のある食事を提供している。職員も利用者と同じものを食べている。3か月に1回外食に出かけたり、家族会の時は、家族と一緒に鍋パーティーや寿司を買って食べるなど食事が楽しみなものになるように支援している。おやつづくり(ホットケーキ、月見だんご、誕生日ケーキなど)も利用者の楽しみのひとつになっている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べれる量を、スタッフ全員が把握しています。又、苦手な食べ物などメニュー変更し、入居者様が完食できるよう支援を行っています。また、水分摂取量に関しては、都度量を記入し、把握に努めています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っていただいています。義歯の衛生管理も都度行っています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用に関しては、安易にオムツを使用せず、定期トイレ誘導・パット使用等ご家族様と相談しながら、段階を踏んで検討しております。又、排泄チェック表で、排泄パターンの把握・誘導の目安として活用し、常に「自立」を意識しています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレで排泄できるように支援している。プライバシーに配慮した声かけをしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っています。又便秘予防のキナコ牛乳の飲用・適度な運動等、便秘予防に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。入浴を拒まれる方へは、時間・曜日を変更し、無理強いく入浴して頂ける様、支援しています。今後夜間入浴も検討していきたいと考えています。	入浴は毎日10時から11時30分までと15時30分から16時30分まで可能で利用者の状態や希望、タイミングに合わせて週3回は入浴をゆっくり楽しめるように支援している。入浴したくない人には職員が交代したり、声かけに工夫して入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局薬剤師・看護師等から都度必要に応じ、確認をしています。又服薬マニュアルに添った服薬・変化が見られた際の様子観察など、「健康シート」に記載し、継続した対応を心がけています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事準備・片付け・洗濯・掃除等、入居者様の嗜好などをご家族にお聞きし、ホームで行ってお手伝い等して頂けるよう支援しています。	新聞の購読、テレビ視聴(歌番組、相撲など)、事業所に掲示する月ごとの貼り絵作り、歌(DVD)に合わせて歌う、風船ゲーム、将棋、散歩、買い物、外食、花の手入れ、畑づくり、草とり、プランターの水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど、楽しみ事や活躍できる場面をつくり、張り合いあや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・散歩等、ご入居者様にお声を掛け、出来る限り外出の機会を設けております。又個別に馴染みの美容室でのカット・魚釣等、穂入居者様の想いに寄り添う様、配慮しています。	施設周辺の散歩や買い物、季節ごとの花見、ドライブ、外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や廊下等に、行事・日常生活の様子など写真掲示し、ご入居者様が楽しめる様、工夫しております。又毎月季節に応じた作品作りを通じ、季節感を感じて頂ける様にしております。	階段の壁面や廊下には毎月の行事や日常の活動、利用者が楽しんでいる様子を写した写真を掲示したり、季節に合わせた作品を飾っている。リビングは明るくソリューションウォーターが設置してあり、温度や湿度、換気、音にも配慮している。テレビ、ソファ、椅子などを配置して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたり、他ユニットの方との交流されたり等、思い思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、ご家族様にお話しさせて頂き、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。	居室の入り口には利用者自筆の表札がかけられてあり、タンス、テレビ、カーペット、机、座椅子、洋服かけなどを持ち込み、家族の写真や思い出の写真、絵を飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ・居室にコールを設置しております。居室で過ごされる時には、いつでもコールを押せるような配慮をし、夜間は居室内・廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日： 平成 25年 3月 14日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	災害時等地域との協力体制の構築	緊急時、地域住民の方からの協力体制の構築	・運営推進会議等での議題提出。 ・避難訓練、夏祭り等通じて、地域住民の方に足を運んでいただき、ソフト面、ハード面を実際の目で確認していただく。	6ヶ月
2	35	事故発生時、全スタッフの応急手当・初期対応の定期的な訓練の実施	全スタッフの応急手当・初期対応の習得・訓練の実施	・応急手当・初期対応の研修を1回/年は必ず実施 ・外部（消防署主催等）の講習への参加	6ヶ月
3	5	地域メンバーの拡大及び、運営推進会議を活かした取り組み	幅広い地域メンバーの参加及び、地域に根付いた活動の発信	・近隣施設等にも声を掛け、運営推進会議への参加を促す。 ・ホームが発信した認知症に関する研修、講習等を運営推進会議で発案、実施をする。	4ヶ月
4	14	外部研修にスタッフが参加できるための検討	スタッフの積極的な外部研修への参加	・各スタッフに参加したい研修を確認し、積極的に参加を促す。 ・それぞれのスキルに応じた研修を調べ、スタッフへ情報伝達していく。	4ヶ月
5	4	全職員での自己評価の実施	外部評価における自己評価の実践	・今回の自己評価及び外部評価結果を全スタッフが確認・把握し、今後のケアに反映すると共に、各評価内容を活用したケアに努める。 ・次回評価をユニット会議・カンファレンス等通じて全スタッフから意見を収集する。	8ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。